



NIE 教育に  
新聞を

4

小学1・2年生向け

### ライオンごうのたび

もりおかよしゆき さく やまぐちようすけ え

どこにでも行ける「ライオンごう」に乗って、ライオン探しの旅に出発！ まず宇宙へ行ってみると、火星や土星のはるか先に、ライオンの形をしたしし座がありました。地球に戻った



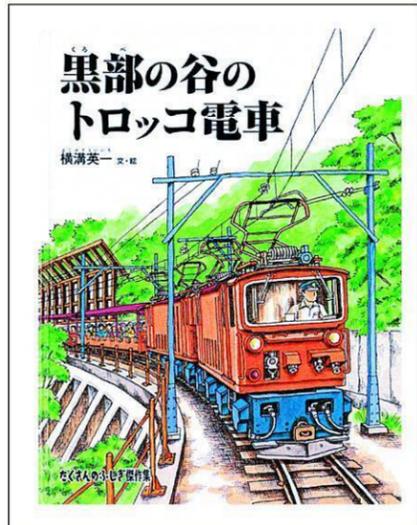
「ライオンごう」は地面を掘って進み、大昔の動物ホラアナライオンの化石の横を通りました。ホラアナライオンは生きていたときはどんな姿だったのでしょ？ 今度は海の中を走り、空を飛んで、着いたのはアメリカのニューヨーク。図書館前にはライオンの像がありました。図書館とライオンにどんな関係があるのでしょうか？ 世界は広くて不思議がいっぱい。夏休み中、みなさんも乗り物で出かけた先に不思議が見つかるかもしれません。(あかね書房 1540円)

小学3・4年生向け

### 黒部の谷のトロッコ電車

よこみぞえいち 横溝英一文・絵

富山県にある険しい谷、黒部峡谷には、普通の電車よりも小さいトロッコ電車が走っています。なぜ小さい電車なのでしょう？ それは、斜面が急で地面が固い黒部峡谷では、大きなトンネルを掘るのが難しかったからです。夏休みになるとたくさんの子どもたちでにぎわうこの電車は、元々ダムや発電所を建てる人や機械を運ぶためにつくられたものでした。電車で峡谷を進むと、大きなトラックが走っているのが見えました。トンネルの幅よりも大きいトラックは、どうやってここまで運ばれてきたのでしょうか？ その他、扉が閉まるトンネルなど、雪深い峡谷を走る乗り物ならではの工夫がわかります。(福音館書店 1430円)



## 図書館へ



### 「乗り物」でどこへ行く？

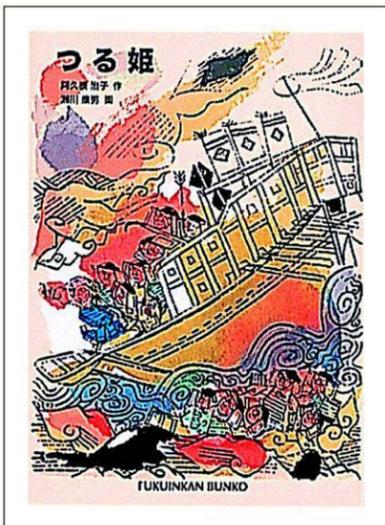
この夏、山梨県立博物館では「みんなのクルマ展」が開かれます。乗り物は時代によって形を変え、大阪で開催中の万博でも、自動運転バスなどのスマートモビリティが紹介されています。本の世界にもさまざまな乗り物が登場します。(山梨県立図書館 大平きよみ) 毎月第2週に掲載します

小学5・6年生向け

### つる姫

あくねはるこちよ 瀬川康男画

戦国時代の始めの頃。大祝家は瀬戸内海の大三島で神をまつり、船に乗って戦う水軍によって城を守ってきました。大祝家の姫君「つる」は、母親や乳母たちと暮らしていましたが、父や兄の活躍する姿に憧れていました。父の死後、静かな屋敷を出て、城へ行ったつるは、兄の家来の明成から馬の乗り方や水軍の心得、船の操縦方法を教えてもらいます。そして、馬も船も「わが身をあずけているものとは、こころをひとつにせねばならぬ」と悟り、いろいろなものを乗りこなせるようになりました。成長したつるは城主になり、大三島をねらう大内氏と対決します。海にいる敵と戦うため、つると明成は船に乗りこみますが……。(福音館書店 825円)



中学生向け

### 海底二万里 (上・下巻)

ジュール・ヴェルヌ作 私立市保彦訳

今から160年ほど前、太平洋や大西洋で《とてつもなく大きなもの》が何隻もの船に目撃されました。パリ博物館のアロナックス教授は、古代の巨大生物の生き残りではないかと考え、助手の CONSEYU、鋳打ちのネッド・ランドとともに、正体を確かめに出かけました。しかし、船が《とてつもなく大きなもの》と衝突して教授たちは海に投げ出され、気付くと潜水艦らしきものの背に横たわっていたのです。潜水艦の中に連れこまれた3人は、船長のネモから、再び海に放り出されるか、船長の命令に従い艦の中で過ごすか選択を迫られます。教授は船長に従うことを選び、潜水艦での生活が始まりました。(岩波書店 上巻924円 下巻1111円)

